

西区の活動事例

西区

学区民手作りによる自主防災訓練



【那古野学区】

■世帯数：2,437 世帯

■人 □：4,204 人

■面 積：0.299 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

那古野小学校において震度6強の地震が発生した場合を想定した自主防災訓練を実施。参加者数は約 340 人。

- ① 災害連絡網を利用して緊急招集。
- ② 19 町内住民が指定の一時避難場所へ集合し、町内情報班が被害状況リストを記入。本部委員は避難者受け入れ体制を整え、救護テントを設置。
- ③ 町内避難誘導班が本部に避難者数と被害者状況を報告。
- ④ 避難者を7班に分け、訓練場へ移動し、炊き出し等の訓練を開始。訓練中に町内給食班へ物資を配給。
- ⑤ 訓練終了後講評。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、学区区政協力委員会及び学区連絡協議会の定例会で訓練実施計画の説明と参加者を募集

【アピールポイント】

- ①避難者受け入れ体制が順調に機能し、本部委員と町内自主防災会との連携が確認され、相互協力が達成できた。
- ②避難訓練を通じ、住民の特技（介護、警護、教職員、英会話能力など）を有する人材の発掘につながった。
- ③不慮の事故を想定し、災害時要援護者及び防災編成組織などの組織責任者を2人体制にした。

2 きっかけ、背景

住民の震災に関する知識の普及、意識啓発を図り、地震への対応能力の向上を図るため、学区民手作りによる自主防災訓練を実施している。訓練を通じて、学区本部委員と町内会自主防災会役員との任務を明確化し、PTA、子ども会役員など若い担い手の育成と学区民の持つ特技や能力を調査し、人材発掘を行う。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 50 人

(2) 他団体との協力

PTA、子ども会、女性会、那古野消防団、災害支援企業

(3) 運営協力

若い担い手発掘のため、訓練時に PTA 及び子ども会から 30 人ほどの協力を得ている。

4 実施のスケジュール

H24 年 三役で平成 24 年度那古野学区自主防災訓練実施計画案を作成（三役による）
5 月

6 月 学区連絡協議会および区政協力委員会の定例会で計画案と概要を了承

8 月 訓練参加者と要援護者名簿、防災会編成図を各町内から提出

9 月 7 日 学区連絡協議会と区政協力委員会の合同会議で任務の確認および協力の依頼

9 月 23 日 那古野小学校グラウンドで訓練のリハーサルを実施

9 月 28 日 避難者全員へ配給する物資の準備（那古野小学校体育館）

9 月 30 日 訓練当日（午前 8 時に震度 6 強の地震が発生した場合を想定し、住民を緊急招集）

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 震度 6 強の地震の発生を想定したため、住民の参加意識が高まり、参加者数が増加した。
- ・ 参加者全員に避難バッグの中身を紹介してもらい、相互のコミュニケーションを図った。

(2) 苦労した点

- ・ 活動の担い手不足。
- ・ 自主防災組織の消化班と救出救護班は実際の災害時に機能できるかどうか疑問があり、訓練でも多数の意見があった。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 自主防災訓練は毎年実施すべき活動だが、災害時に高齢者の多い区政協力委員で対応できるか不安である。早急に若い世代の担い手、リーダーの輩出が必要であり、その方法を考えている。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 本部委員と町内自主防災会役員の任務の明確化と連携が重要。
- ・ 訓練は、震度 6 強の地震の発生という緊急連絡から開始し、避難者受け入れ体制及び本部の設置、自主防災会役員による被害状況リストおよび災害時要援護者名簿の作成まで行っている。また、参加者全員で用具の搬入と収納作業を行っている。



ふれあい盆踊り



【幅下学区】

■世帯数：3,467 世帯

■人 □：6,165 人

■面 積：0.550 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 幅下小学校校庭を会場に「ふれあい盆踊り」を 8 月第一土曜日に開催。参加者数は約 500 人。雨天時は体育館にて開催。
- ・ 子ども会と PTA によるゲーム、女性会などによる踊りのほか、空クジなしの抽選会を実施する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、学区回覧、掲示板へのポスター掲示

【アピールポイント】

子ども会と PTA によるゲームや抽選会

2 きっかけ、背景

住民のふれあいの場所がなかったため、ご近所・お隣さんと知り合うことを目的とした行事の一環として、「ふれあい盆踊り」を開催するようになった。平成 24 年度で 5 回目となる。老若男女が楽しいひと時を過ごせるよう、各種団体が役割分担して実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会、民生委員
児童委員、保健委員、消防団員、PTA、
女性会、子ども会、老人クラブ

計約 60 人

(2) 運営協力

幅下学区連絡協議会が主催し、各
種団体と区政協力委員は責任者を務
める。

4 実施のスケジュール

H24 年 役員会（8 人が参加）
7 月 2 日



7 月 10 日 役員会（36 人が参加）



7 月 踊りの練習（2 回）
着付け教室（2 回）



8 月 4 日 「ふれあい盆踊り」開催
朝 7 時から会場づくり



8 月 5 日 やぐら解体



8 月 6 日 反省会を実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

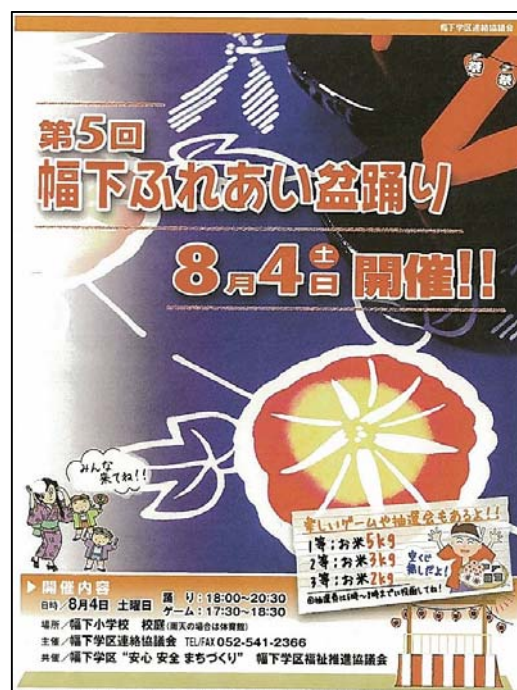
- ・ 住民間の交流が深まり、「お互い様」の精神が少しずつ定着した。

(2) 苦労した点

- ・ 住民全員の参加を目標に、参加者を募集した。
- ・ 活動の担い手不足。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の担い手の世代交代と他団体との協力を進め、学区の一大イベントとしていきたい。



青チャリパトロール隊



【江西学区】

■世帯数：2,336 世帯

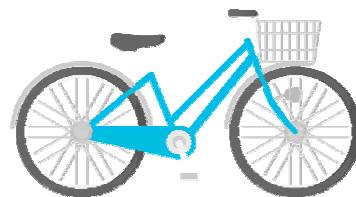
■人 口：3,937 人

■面 積：0.508 k^m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 自転車を利用し、学区内全域のパトロールを実施する。特に学校の下校時間帯を重点的にパトロールする。
- ・ 青チャリパトロール隊は、学区連絡協議会のメンバーで編成し、パトロールは輪番制とする。年間の延べ参加者数は約 72 人。



【住民への PR 方法】

学区連絡協議会のメンバーによる輪番制

【アピールポイント】

青チャリパトロールは健康防犯パトロールの一環で発足し、活動を行うことで防犯意識の向上や犯罪抑止の効果があったと思われる。また、参加者からは健康増進に役立つと評価されている。

2 きっかけ、背景

平成 22 年度に江西学区が地域委員会のモデル学区になったことをきっかけに、災害や交通事故の発生を抑止し、子どもの安全を確保するとともに参加者がパトロールを通じて健康づくりできるよう、自転車 3 台、電動自転車 3 台で青チャリパトロール隊を編成した。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、学区連絡協議会メンバー

計約 72 人



4 実施のスケジュール

学区連絡協議会の毎月の定例会において、前月のパトロール活動を取りまとめ、当月のパトロール従事者を決定する。

日常的なパトロール活動のほか、学区行事と連携した活動も実施している。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 子どもたちに活動が認知されるなど、住民の防犯意識が高まった。
- ・ 青チャリパトロール活動を通じて住民間の交流が深まり、住民同士の声かけが増えた。

(2) 苦労した点

- ・ 活動の担い手不足。活動の拡大を図るため、周知方法や参加しやすい方法の検討し、担い手を確保したい。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 地域防犯力の向上のために、活動を継続することが課題

大規模災害が起きた時の住民の助け合い作り



【城西学区】

■世帯数：4,382 世帯

■人 □：8,853 人

■面 積：0.888 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・城西公園及び学区内の各公園において、巨大地震対策訓練（自主防災訓練）を実施。参加者数は約 1,650 人。
- ・町内会指定の第一次避難所に集合し、災害対策名簿を利用した安否確認、訓練の説明。
- ・第二次拠点避難所で、町内指導員のサポートによる身体ケアの体験を行い、避難誘導訓練を行う。
- ・城西小学校では、日本赤十字社による講習、炊き出し訓練のほか、地下給水の開栓やサバイバル訓練などの催し物コーナーを設置する。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧

【アピールポイント】

老若男女がこぞって参加していること。

2 きっかけ、背景

学区の住民同士が災害発生時に互いに手を携えて助け合えるように、日常の心構えを養うことのできる内容の自主防災訓練を開始した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、城西小学校、町内会、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員

(2) 他団体との協力

日本赤十字社愛知県支部、西区災害ボランティア、ボーイスカウト126団

(3) 運営協力

学区連絡協議会の役員

4 実施のスケジュール

H24年11月10日 訓練の実施スケジュール

9:00 巨大地震発生を緊急連絡網にて伝達

9:30 大規模災害対策地区本部設置

【ステージ1 町内会指定の第一次避難所へ集合】
10:00 1.安否確認
～ 2.城西小学校にて見学・体験する人に非常食試食券を配付（無料）
10:30 3.防災倉庫の確認等

【ステージ2 第二次拠点避難所へ集合】
10:45 1.合同避難所生活体験
～ (足湯、ホットタオル、毛布でガウン 等)
11:40 2.第三次避難所（城西小）への移動

【ステージ3 城西小学校にて見学・体験】
12:00 1.煙道体験
～ 2.自転車交通誘導
14:00 3.組み立てトイレ実演の見学
4.サバイバル学習
5.地下式給水栓
6.日本赤十字愛知県支部コーナー
7.城西小児童消防隊による放水訓練
8.城西小児童交通警察隊による交通安全教室
9.非常食、防災グッズの展示会
(城西公園にて)
1.炊き出しによる非常食の配給

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者の増加、住民間の交流の深まり、担い手の増加
- 予想以上に参加住民に防災意識が身に付いた。

(2) 苦労した点

- 非常食の配布に対して少し苦労したが、約1時間で1,650人分を配布完了した。

城西学区 自主防災訓練のお知らせ ～絆とおもいやり～

第1回 防災・防犯フェスタ城西 (平成24年)

城西学区の皆さん、お初めしよ！

そのとき、訓練と助け合いが必ずあなたを守ります。

自主防災

まず10時までに町内会指定の第一次避難所に集まってください。

＜それが訓練の始まりです＞

11月10日(土) 9時00分に巨大地震発生と想定

ステージ1 町内会指定の第一次避難所へ集合(城西小学校)	ステージ2 第二次拠点避難所へ集合	ステージ3 城西小学校にて見学・体験
10:00 1.安否確認 10:30 2.城西小学校にて見学・体験する人に非常食試食券を配付(無料) 3.防災倉庫の確認等	10:45 1.合同避難所生活体験 (足湯、ホットタオル、毛布でガウン 等) 11:40 2.第三次避難所(城西小)への移動	12:00 1.煙道体験 2.自転車交通誘導 3.組み立てトイレ実演の見学 4.サバイバル学習 5.地下式給水栓 6.日本赤十字愛知県支部コーナー
		7.城西小児童消防隊による放水訓練 8.城西小児童交通警察隊による交通安全教室 9.非常食、防災グッズの展示会 (城西公園にて) 1.炊き出しによる非常食の配給

城西小学校へ通学しているお子様と保護者の方は、学校の指示に従ってください。

主催：城西学区連絡協議会、城西小学校
協力：西区役所、西区防署、西警察署、西消防事務所、西上下水道事務所、日本赤十字愛知県支部、城西社会福祉協議会、なごやにし防災ボランティアの会、ボーイスカウト名古屋126団(横平団)

福祉ふれあい夏まつり



【榎学区】

■世帯数：1,904 世帯

■人 □：4,369 人

■面 積：0.495 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 榎小学校の校庭を会場にして、「福祉ふれあい夏まつり」を開催している。
- ・ 延べ参加者数は約 250～300 人。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

子どもから高齢者まで一緒に集まれるよう工夫しているところ

2 きっかけ、背景

地域と住民との情報共有や住民間や世代間のふれあいと交流を促進する場として、「福祉ふれあい夏まつり」を開催。まつりの開催を通じて子ども・青少年の健全育成や高齢者・障がい者などへの支援を行う。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、消防団員、女性会、子ども会、老人クラブ 計約 70 人

(2) 他団体との協力

地域団体

4 実施のスケジュール

4 月初旬 学区連絡協議会で新役員に引き継ぎ



5 月末頃 各種団体の役割分担を検討



6 月末頃 各種団体の役割分担を検討



7 月初旬 役員での打合せ



7 月末頃 最終打合せ

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増加し、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

参加者の確保と他の団体との協力の苦労した。

(3) 今後の課題・展望

他団体との協力を進め、活動を継続することが今後の課題。



ふれあいもちつき大会



【南押切学区】

■世帯数：1,351 世帯

■人 口：2,862 人

■面 積：0.202 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 西文化センターにおいて、12 月に「ふれあいもちつき大会」を開催している。延べ参加者数は約 260 人。
- ・ 午前中にもちつきを行い、参加者にふるまった後、午後は、マジックショーや子ども映画会などを行い、子どもから高齢者まで一緒に楽しめるような企画を実施している。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

子どもからお年寄りまで、学区住民のほぼ 1 割が参加する一大イベントとなっている。

2 きっかけ、背景

地域住民や世代間の交流を図る場として、毎年開催し、15 年以上続く学区の恒例行事となっている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、子ども会、老人クラブ
計約 35 人

(2) 他団体との協力

市西文化センター など



4 実施のスケジュール

H23 年 4 月 学区連絡協議会で実施を決定

11月 チラシを作成・掲示

12月15日 会場設営 杵・臼準備

16日 もち米準備

17日 「ふれあいもちつき大会」を開催
もち米蒸し（民生委員）
手こね（子ども会）
会場設営・片付け

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増加し、子どもから高齢者まで世代間の交流が深まった。

(2) 苦勞した点

女性会が活動休止となり、民生委員、連
合子ども会に役割分担してもらった。

(3) 今後の課題・展望

今後は、親子連れなどに参加を幅広く呼びかけていきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

地域のいろいろな団体が一致団結して、
地域を盛り上げている。



健康教室



【栄生学区】

■世帯数：2,928 世帯

■人 □：5,609 人

■面 積：0.665 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 栄生コミュニティセンターを会場に「健康教室」を開催している。延べ参加者数は約 70 人。
- ・ 生活習慣病や脳梗塞、心不全といった病気への原因を知り、予防するための意識啓発や心構えについての講義を行う。
- ・ 学区連絡協議会を中心に、地域の住民を対象とした企画に取り組んだ。

【住民への PR 方法】

各団体長の呼びかけで各団体より数名参加

【アピールポイント】

いろいろな病気に対する予防方法など、少しでも役に立てば良いと思う。

2 きっかけ、背景

学区内の高齢化が進み、住民からの要望や役員等の提案があり、住民の健康づくりのため、健康教室を開催することとなった。地域医療機関の医師に相談し、生活習慣病や脳梗塞、心不全などの病気の原因などについての情報共有と予防に関する意識啓発が必要と考えた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ 計約 25 人

(2) 他団体との協力

区政協力委員、民生委員児童委員、老人会、女性会、ボランティア会、小学校 PTA、中学校 PTA、消防団、子ども会など

(3) 運営協力

健康教室の講師は地域の医療機関の医師に依頼している。

4 実施のスケジュール

毎年 2 月 資料の準備



3 月 健康教室の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

健康教室に参加することにより、生活習慣病に対する心構えなど住民意識が高まった。

(2) 苦労した点

参加者の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

健康教室の活動を継続し、日常的に高齢者の健康を見守ることが今後の課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

生活習慣病に対しての意識啓発と心構えが必要。

朝市(地産地消)



【枇杷島学区】

■世帯数：3,433 世帯

■人 口：7,499 人

■面 積：0.987 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 地産地消推進活動に取組み、女性会主催による「朝市」を枇杷島学区集会所で毎月第2土曜日の朝9時から開催。
- ・ 野菜類は中村区から、米・トマトは港区（南陽町）から、卵は守山区から、こんにゃくは西区から、菓子類は学区内からと、地産地消の商品が並ぶ。
- ・ ミニフリーマーケットや“ふれあいサロンひまわり”も同時開催し、買い物後のコーヒーも楽しめるなど、住民の交流の場となっている。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧

2 きっかけ、背景

生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が名古屋市で開催されたことをきっかけに、平成20年に生物多様性について、6回の勉強会を開催した。学習内容を受けて、生物の恵みに感謝し、フードマイレージや「身土不二」について考え、平成22年12月から地産地消の朝市を始めた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

女性団体・女性会

(2) 運営協力

女性会が存続する限り、活動を継続する。



4 実施のスケジュール

毎月第2土曜日に開催

開催前日 値段付け



開催当日 早朝に入荷し、値段付け



5 成果と課題

(1) 成果・効果

朝市の開催を通じて、住民間の交流が深まり、一人暮らしの高齢者の安否確認にもつながっている。

(2) メッセージ・アドバイス

人と人とのつながりが大切。



春のふれあいまつり



【児玉学区】

■世帯数：3,023 世帯

■人 □：6,520 人

■面 積：0.668 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

児玉コミュニティセンター及び児玉小学校の校庭を会場として、「春のふれあいまつり」を開催。延べ参加者数は約 1,500 人。

- ① 餅つき・豚汁の無料提供
- ② 参加券の販売：大人券 1 枚 500 円、子ども券 1 枚 300 円で町内会や子ども会を通じて事前に販売する。三角くじ引き券・お寿司券・飲み物券が付いている。
- ③ 防災ショー：起震車で震度 7 を体験する。
- ④ 模擬店：みたらし団子の販売。
- ⑤ 輪投げ
- ⑥ フリーマーケット



【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

実行委員会策定の事業計画・役割分担に基づき、運営メンバー 100 名が心を一つにして、学区住民を迎え、明るく笑顔でもてなすことができ、協調体制が強くなり、地域の活性化に弾みがついた。

2 きっかけ、背景

まつりの開催を通じ、地域住民の世代間の交流が進み、ふれあいの輪が広がる場となり、学区住民の連帯感と絆を強め、助け合いの意識の向上につながることを目指している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性会、子ども会、老人クラブ、コミセン委員 計約 100 人

(2) 他団体との協力

企業、西消防署

(3) 運営協力

各種団体の若手に運営への参加を呼びかけ、積極的に関わるよう、声かけをしている。

4 実施のスケジュール

H24 年 第 1 回実行委員会を開催 骨子案を
1 月 策定

2 月 学区連絡協議会にて事業計画を提示
組回覧、ポスターの掲示、参加券の販売

3 月 第 2 回実行委員会を開催 役割分担
等を周知、参加者の集計と資材の発注
量を決定

4 月 春のふれあいまつりを開催
終了後、実行委員による反省会を開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の世代交代が進み、若い世代の参加者が増え、新しいふれあいの輪が育まれており、地域の活性化につながった。

(2) 今後の課題・展望

ボランティア活動の中の不測の事故に備えて、運営メンバーに対するボランティア保険（傷害・賠償）への加入の必要性が高まっている。

(3) メッセージ・アドバイス

ふれあい活動を通じて、地域住民が安心・安全に元気に暮らせるまちづくりのため、学区役員のボランティア活動に対する取組み意識の向上を、議論を重ねながら高めることが大事だと思う。



“ふれあい、絆づくり”活動



【上名古屋学区】

■世帯数：4,225 世帯

■人 口：9,202 人

■面 積：0.755 k^m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

地域住民の交流を促進するために、「ふれあいの場の提供」を進めている。

- ① 各種講座の開催：上名古屋会館にて年間 12 講座を週 1 回開催
- ② ふれあい盆踊り大会：上名古屋小学校にて、8月初旬に子ども会を中心に地域団体が一緒になって開催。平成 23 年度は約 1,500 人が参加
- ③ 地域「ふれあいまつり」：上名古屋小学校にて、9月下旬に開催。各種団体の協力を得て、ゲーム、楽器演奏、コーラス、体操、ダンス等を開催し、平成 23 年度は約 4,000 人が参加

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、掲示板への掲示

【アピールポイント】

地域の住民のふれあい、絆づくりを大切にしている。

「上名古屋会館」を利用して、各種講座をボランティアと協同し企画運営しているが、一部の参加者には、地域行事にも積極的な参画をいただき、より多くの地域住民間の交流を図っている。

2 きっかけ、背景

近隣住民同士のあいさつなどが乏しくなり、地域の関係が希薄となっている現状に加え、学区が運営管理している「上名古屋会館」の利用者が少ないことから、地域のためになる新組織を発足して各種行事を企画運営している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、ボランティア
計約 300 人

(2) 他団体との協力

企業 10 社、自主参加の個人ボランティア

(3) 運営協力

学区連絡協議会の支援を得て、講座ごとに責任者・講師等が独自に運営し、会員の増加を図っている。また、積極的に地域活動にも参画いただいている。

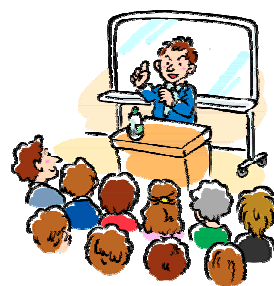
4 実施のスケジュール

H24 年 2月 事業計画の策定
学区連絡協議会が支援した実行委員会を立ち上げ（役員 約 10 人）

6～8月 実行委員会会議 5 回程度開催
会議にて役割分担等の決定と開催内容の周知

8月 ふれあい盆踊り大会を開催

9月 ふれあいまつりを開催



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- 参加者が増加し、住民間の交流が深まるとともに担い手も増加した。
- 各世代が参加しやすい講座を毎週 1 回開催し、中でも「男たちの茶房」には年間延べ約 4,000 人が参加し、全 12 講座で延べ約 1 万人が参加するなど、地域交流の場所を提供している。

(2) 苦労した点

- 当初は講師等、運営する人の募集に苦慮した。（予算措置がなく、手弁当での依頼のため）

(3) 今後の課題・展望

- 自主活動に対しては予算援助がなく、善意に頼ることとなり、その中で今後、いかに活動していくかが課題である。

ふれあい運動会の恒例開催



【庄内学区】

■世帯数：6,418 世帯

■人 口：14,091 人

■面 積：1.804 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 庄内小学校において運動会を開催している。延べ参加者数は約 1,000 人。
- ・ 企画・運営体制を決め、実施競技を検討し、進行スタッフの役割分担を明確にしたうえで実施している。参加者の募集は小学校を通じて行う。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、小学校を通じて参加の呼びかけ

【アピールポイント】

町内会同士がよくまとまっており、各世代が参加するジェネレーションリレーなどでは最高潮の盛り上がりをみせる。

2 きっかけ、背景

子どもから高齢者まで、地域住民の交流の場をつくりたいとの思いから、PTAやオヤジクラブのメンバーが立ち上がり、運動会の開催にこぎつけた。平成24年で6回目の開催となる。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、オヤジクラブ、女性会、老人クラブ、スポーツ推進委員、小学校

計約 150 人

(2) 他団体との協力

庄内学区連絡協議会

(3) 運営協力

他の行事（ドッジボール大会、夏祭り）でも住民同士の親睦を図っている。また、各団体の業務負担が偏らないように努めている。

4 実施のスケジュール

毎年 7 月初旬 実施体制の確認

7 月中旬 参加者の募集（小学校を通じ、生徒や家族の参加を呼びかけ）

8 月後半 参加者の取りまとめ

9 月 内容の確認、役割分担の確定、購入品の確定
各町内で、各競技の参加者の割り振り作業

10 月 ふれあい運動会の開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 子どもから大人まで、様々な年代の住民がひとつになって楽しむことができた。

(2) 苦労した点

- ・ 少子化の進むなか、参加者数の減少が不安要素となっている。
- ・ 業務繁忙の折、担い手が不足しがち。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 担い手の世代交代が課題。参加者や活動の担い手を増やすため、日頃からの活動が重要。



地域・学校・親 三位一体で子どもを守る



【稲生学区】

■世帯数：5,683 世帯

■人 口：12,231 人

■面 積：0.987 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 児童の安全を守るため、ボランティアを中心とした「稲生学区子どもを守る会」を結成し、登下校時の見守り活動を行っている。当番制では負担が大きいため、無理のない範囲での活動をお願いしている。
- ・ 年に 1 回、稲生小学校で「感謝の会」を実施。1 年生から 6 年生までの教室に分かれて、子どもを守る会のメンバーと子ども達が一緒に給食を食べながら交流している。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、区政協力委員より各町内の子ども、高齢者を守ってくれる人を募集

【アピールポイント】

子どもたちがあいさつしてくれるようになったほか、年 1 回、小学校で「感謝の会」を実施している。活動を通じて、子ども、保護者、先生、子どもを守る会の人の輪が大きく広がっている。

2 きっかけ、背景

平成 17 年に、学区内の女子児童が見知らぬ男に後をつけられるという事件が発生した。これをきっかけに、「地域の子どもは地域で守らなければ」という思いから、「稲生学区子どもを守る会」を発足。子どもの見守り活動に限らず、地域が一体となって防災・防犯に取り組まなければならないとの思いで、活動を展開している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、稲生クラブ、学区
連絡協議会

(2) 他団体との協力

老人会、女性会、民生委員

(3) 運営協力

学区区政協力委員会の定例会や、
学区連絡協議会で協力者の勧誘をお
願いする。

4 実施のスケジュール

H17年12月 区政協力委員会に呼びかけ、
「子どもを守る会」の参加者募
集を開始



H18年1月 参加者15名で発会式



H23年7月 稲生小学校での「感謝の会」を
稲生クラブで提案
子どもを守る会メンバーと児
童と一緒に給食を食べる「感謝
の会」を開催（H24年1月に
も実施）



H24年4月 子どもを守る会会員が45名に
なる

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 地域の安全に対する住民の意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 子どもを守る会の会員が増加した。
- ・ 参加者は、自分の子どもや孫がいなくても、自分の町内の子どもたちを守る
ために見守り活動をしている。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保。できれば学区内の全町内会
に参加してほしい。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続が課題。学区住民に地域の安全
に対する不安がある限り、活動を継続した
い。



公園花壇と清掃活動



【山田学区】

■世帯数：6,270 世帯

■人 口：14,637 人

■面 積：1.794 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎月、学区内の各公園において、清掃活動と花壇の手入れを行っている。延べ参加者数は毎月約 200 人。
- ・ ラジオ体操期間は子ども会が毎朝草取りをする。
- ・ 花の苗は、土木事務所などから支給されたり、住民有志が種から育てたものを使ったりしている。
- ・ 運営費は、公園愛護会、町内会、自治会からの補助金でまかなっている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

公園は花いっぱいである。水やりは毎日欠かさず、清掃活動も月 1～4 回実施しており、ほぼ満足している。

2 きっかけ、背景

平成 18 年当時、公園周辺は草が伸び放題で、犬猫の糞害もひどかった。そこで、住民有志の発案により公園の清掃と花壇の整備を行うようになった。活動は、中浦公園から始まり、学区内の各公園へと波及し、現在では住民同士のコミュニケーションの場としても機能している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ 計約 200 人／月

(2) 他団体との協力

地域の美容院や弁当屋、障がい者支援施設

4 実施のスケジュール

H18 年 4 月 中浦公園クリーンクラブ発足



H19 年 10 月 平塚公園愛護会発足



正確な発足時期
は不明 道間公園桜会、赤城公園すみれ会発足

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 公園の美化に対する住民の意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 子ども会、老人会、町内会が協調的に活動に参加している。
- ・ 企業や慈善団体が自然と人員を派遣してくれるようになった。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者を確保すること、住民の理解を得ること。



平田学区自治会活動

～地域の‘ゆるやかなつながり’による地域活動～



【平田学区】

■世帯数：3,746 世帯

■人 口：8,700 人

■面 積：1.553km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 学区全域で、「交通事故死ゼロの日」等のパトロールを実施。学区内の主要交差点に旗を持った見張り番が立つほか、広報車を使った啓発活動を朝8時～8時40分の間で実施している。
- 住民の交流が深まるよう、小学校や学校体育センターで学区運動会、盆踊り大会を開催するほか、コミュニティセンターでコミセンまつり等を開催しており、延べ3,000人が参加する。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

自分たちのやれることを自分たちで、地域のいろいろな人の“ゆるやかなつながり”をもって継続して実施している。また、行政に頼らず、自治会主体で自律的に活動している。

2 きっかけ、背景

交通事故死ゼロの日の立ち番の割り振りを行うが、現役世代はできないこともある。だからといって周囲が批判しては、地域活動の担い手がいなくなってしまう。そこで、立ち番ができない場合でも、地域として交通事故ゼロを啓発するため、学区の広報車を使って呼びかけを行っている。また、住民の交流行事もできるだけ役員の負担にならないよう、皆で助け合って開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

町内会・自治会長 計約 30 人

(2) 他団体との協力

P T A や子ども会など地域の団体と協力して実施するケースもある。

(3) 運営協力

交通安全の立ち番などは順番の割り振りを行うが、できない場合には自治会長がフォローしている。

※無理をしたり、できないことで批判があるとやり手がなくなるため、助け合っている。

4 実施のスケジュール

毎月	定例自治会
毎月ゼロの日	立ち番の実施、広報車による交通安全啓発
6 月	学区運動会
7 月	盆踊り大会
9 月	敬老行事
10 月	コミセンまつり
年度末・初、 年始	学区連絡協議会：翌年度事業計画・予算、前年度事業報告・決算報告、懇親会等

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 割り振りどおりできないことに批判があると、やる気が薄れてしまう。できる範囲での協力を求めることで、地域のつながりを保っている。



(2) 苦労した点

- ・ 住民の理解を得ることや、活動の担い手不足。行政に言われたからやるのではなく、自分たちでできる範囲のことをやることが大切。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 担い手の世代交代が課題である。現役世代が活動に取り組むことは、時間的に難しいので配慮している。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ いろいろなことに手を出しすぎて住民の負担になってはいけない。また、役員をはじめ、運営者の負担を少なくしていくことが大切。
- ・ 住民の側を向いた活動を、住民同士の“ゆるやかなつながり”のもと、自分たちで取り組んでいくことが大切。

比良学区盆踊り大会



【比良学区】

■世帯数：1,833 世帯

■人 口：4,717 人

■面 積：0.755 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・住民間や世代間の交流の促進を目的として、毎年 8 月の 2 日間、宮裏公園にて盆踊り大会を開催している。延べ参加者数は約 1,500 人。
- ・比良学区連絡協議会および福祉推進協議会が実施母体となり、自治会委員（区政協力委員）全員を含めて「盆踊り実行委員会」を編成。総勢 90 人以上が参加・協力しながら運営している。
- ・盆踊りのほか、子ども会による金魚すくいや風船つりも実施。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、各団体経由で参加を呼びかけ

【アピールポイント】

来場者全員にジュースを配布しているほか、踊り手にはパンを配布している。子ども会による金魚すくい、風船つりも行っている。

2 きっかけ、背景

過去に商店街で実施していた盆踊り大会を、平成 3 年から比良学区盆踊り大会として、学区を挙げて実施することになった。以降は毎年開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、子
ども会、老人クラブ、スポーツ推進
委員、近隣住民 計約 90 人

(2) 他団体との協力

比良西学区と交流しているほか、
商店街や企業から協賛金などの支援
を受けている。

(3) 運営協力

民踊クラブによる盆踊りの指導

4 実施のスケジュール

H24 年
5 月 盆踊りプログラム・CDの作成



6 月 福祉推進協議会・連絡協議会合
同説明会
定例会で自治会委員（区政協力
委員）へ説明



7 月 24～
25 日 盆踊りの練習



8 月 3～
4 日 準備・設営



8 月 4～
5 日 盆踊り大会開催



8 月 6 日 撤収



8 月 19 日 反省会及び学区大運動会の説
明会

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 参加者が増加し、住民意識が高まった。
- ・ 学区住民の一体感が生まれた。

(2) 苦労した点

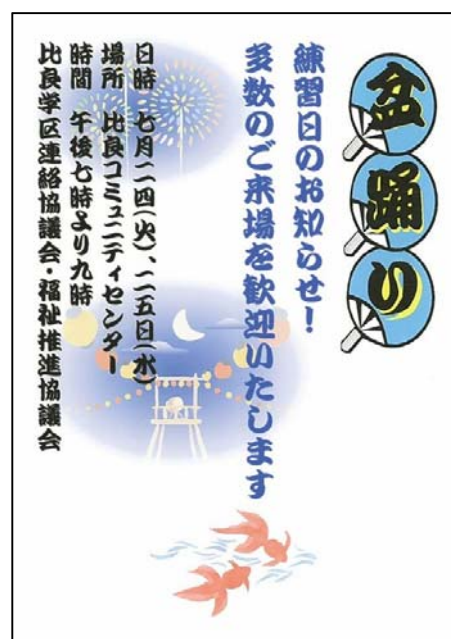
- ・ 台風や雷雨、猛暑など、天候に左右される。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動を継続するため、活動資金の確保、
他団体との協力が課題。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 学区の活動には、住民の理解と協力が不可欠。



広げよう・三世代の輪！



【大野木学区】

■世帯数：4,247 世帯

■人 口：10,224 人

■面 積：1.414km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

三世代の交流をめざして、各町内会で親子三世代グラウンドゴルフ大会を実施しているほか、学区自主防災会による防災訓練、親子三世代自転車教室などを開催している。延べ参加者数は約 1,000 人。

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

自治会、女性会、子ども会などの団体間の話し合いや連絡が素早くできて、団結があるため、様々な行事がスムーズに進行できる。

2 きっかけ、背景

子ども会、女性会の活動を通じて、住民や高齢者とのふれあいの場の必要性を感じ、住民間の交流を深めるための活動を展開している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、女性団体・女性会、子ども会、
スポーツ推進委員 計約 180 人

(2) 他団体との協力

名古屋城北ライオンズクラブ、な
ごや環境大学

(3) 運営協力

各種団体との交流を図っている。
後継者の育成については日頃から女
性会、子ども会との交流を持つこと
で対応している。

4 実施のスケジュール

随時 生き物観察会（洗堰ビオトー
プ）

随時 親子三世代町内別グラウンド
ゴルフ大会

随時 学区女性会による慰問、その他
行事に参加

毎月 1 回 防犯パトロール

H24 年
5 月 自転車教室



9 月 学区自主防災訓練



12 月 学区防災・防犯一斉パトロール

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 参加希望者が多く、人数制限している。



(2) 苦労した点

- ・ 活動の担い手確保。若い世代のボランティア
捜しに苦労している。



(3) 今後の課題・展望

- ・ 担い手の世代交代、他団体との協力が課題。
- ・ 男女問わず区政協力委員を増やし、活気ある学区にしたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 行事に取り組み参加することで、人と人との輪が広がり、明るい町づくりに
つながる。

浮野学区ふれあい給食寿会



【浮野学区】

■世帯数：1,696 世帯

■人 □：3,606 人

■面 積：0.768 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎月 1 回、浮野コミュニティセンターにて、高齢者を対象とした給食会を開催している。年間の延べ参加者数は約 630 人である。
- ・ 手作りの料理を提供し、誕生日のお祝いや、講演、音楽を楽しんでいる。
- ・ 年末には手作りのおせち料理を配布する。

【住民への PR 方法】

はじめりは市営平田住宅女性部の見守り活動から。現在は民生委員が呼びかけ申し込んでいただく。

【アピールポイント】

毎月手作りの料理を楽しみに参加してくださる高齢者の笑顔が励みになる。年末の手作りのおせち料理が自慢。

2 きっかけ、背景

当学区の高齢化率は 30.6%と、西区内で最も高い。孤独死防止のため、高齢者の見守りも含めてふれあい給食会を始めた。交通安全や防災等の話を聞く勉強会も行っている。その他、子育てサロン、高齢者対象のサロンを行うグループもある。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、女性団体・女性会、地域ボランティア 計約 15 人

(2) 他団体との協力

民生委員、区政協力委員、女性会、保健委員

(3) 運営協力

町内会ごとに担い手を募り、できる限り若い人に関わってもらえるよう努力している。



4 実施のスケジュール

S54 年 市営住宅平田荘の自治会から女性部に声をかけ、高齢者の困り事を聞きながら訪問し、食事会を開催

S58 年 10 月に規約を制定。以後、30 数年継続し、現在に至る。



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民、特に高齢者とのコミュニケーションが深まり、どこでも声かけができるようになった。

(2) 苦労した点

- ・ 活動を始めた当初は、高齢者（特に一人暮らし）も少なく、何人参加があるか不安だった。
- ・ 今後、担い手をどうするか、他団体の協力を得られるかが心配。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 担い手が高齢化しており、継続するため 40～50 代の新たな担い手を希望する。
- ・ 20 年前からすると助成金が減っており、活動資金の確保が課題。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 毎月開催する事によって高齢者の安否確認ができる。また、民生委員や他団体の見守りボランティアの方と情報交換ができ、孤独死防止にもつながっていく。

学区夏祭り大会



【比良西学区】

■世帯数：2,542 世帯

■人 口：5,950 人

■面 積：0.738 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・地域のふれあいの場として、比良西小学校において夏祭りを開催している。延べ参加者数は約 3,000 人。
- ・やぐらを中心とした盆踊りのほか、子ども遊び広場や抽選会を実施している。
- ・実施日は 7 月の最終土日の基本とし、隣接する比良学区と調整する。
- ・大会の 1 ヶ月前から実行委員会を組織し、担当割り、抽選品を決める。また、抽選券（1 枚 200 円）は組長を通じて各戸へ販売するが、約 4,000 枚の売り上げがある。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

2 日間の祭りは親子や孫が集う場として定着している。親が孫にと抽選券をまとめ買いすることも多い。子ども遊び券（無料）を手にか会場へ来てスナップ写真を撮るなど、皆さん楽しんでいる。

2 きっかけ、背景

30 数年前から継続し、地域住民のふれあいの場として定着している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、スポーツ推進委員 計約 185 人

(2) 運営協力

子ども遊びの一部に若いボランティアが協力してくれている。

4 実施のスケジュール

7 月末～8 月初旬の 2 日間
(19 時～21 時)、夏祭りを開催



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 参加者が増加し、住民間の交流が深まった。
- ・ 大抽選会が好評で、グループホームの高齢者が車いすで訪れ、景品をもらって喜ぶ姿が見られる。

(2) 苦労した点

- ・ 学校のグラウンド全面使用により照明が明るいことと、雨天中止時の抽選会の賞品の処分が不安。

(3) 今後の課題・展望

- ・ けが等がないよう、安全対策に配慮しつつ現状の活動を継続する。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 学区の発足が遅く、市営住宅・個人宅・集合住宅が混在する地域だが、学区自治会が一つの組織体で自治会長（区政協力委員長）の指示のもとに運営ができ、規模も大きくなっている。



“心のふれあい広場”納涼盆踊り



【中小田井学区】

■世帯数：4,875 世帯

■人 口：11,244 人

■面 積：2.060km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎年 8 月第 1 土曜日曜の 2 日間、中小田井公園児童グラウンドにて“心のふれあい広場”納涼盆踊り」を開催。延べ約 2,500～3,000 人が参加する。
- ・ 盆踊りのほか、模擬店や抽選会なども行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、学区発行の「なかおたいたより」に掲載

【アピールポイント】

学区住民全員が参加することを目標にしている。また、役割分担は各種団体委員や町内会組長等、広く担当してもらっている。

2 きっかけ、背景

平成 12 年 9 月に東海豪雨を経験し、住民同士の助け合いの原点は日頃からの近隣のふれあいが必要であることを痛感。盆踊り大会は、災害以前から実施していたが、特定団体の事業から学区全体の事業として実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、子
ども会、老人クラブ、スポーツ推進
委員、少年補導委員・保護司

計約 150 人

(2) 運営協力

学区連絡協議会を中心に、各種団
体の長と町内会長はいずれかの責任
者をお願いしている。

4 実施のスケジュール

毎年5月7日 第1回納涼盆踊り実行委員会



6月第3週 第2回納涼盆踊り実行委員会



7月中旬 第3回納涼盆踊り役割分担責
任者会議



盆踊り練習日 7月7日、14日、21日
8月3日



8月第1週の 午前中 会場設営
土・日曜日 午前6時～9時 盆踊り開催



8月第3週 反省会

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 年々、来場者が増えており、住民間の交流が深まっている。
- ・ 役員の仕事として定着し、担い手が増加している。

(2) 苦労した点

- ・ 全体の企画運営を自治会役員（9名）が担当。毎年、半数が交代するため、特定の役員に負担が集中してしまう。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 学区最大の事業と位置づけているが、後継者が育っていない。
- ・ 今後、地元企業との協賛事業に育てたい。

